



### 「図やしきをつかって」(2年生 算数科の学習より)

「校長室だより」22号でお伝えしましたように、本校では、今年度より「新しい時代を生きる子どもに必要な資質・能力の育成 ～2030年学習指導要領に向けての基礎研究～」をテーマとし、実践研究に取り組んでいます。

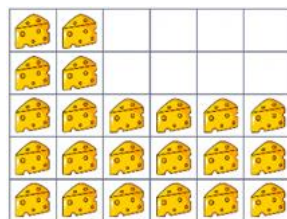
11月5日には今年度4回目の「授業研究会」として、全教員で2年生の算数科「かけ算」の授業を参観し、より効果的な指導・支援を行うためにはどのような工夫ができるのか討議したり、授業改善に向けて外部講師の先生に助言をいただいたりしました。



2年担当グループが取り組んでいる研究テーマは、「社会とつながる学び」。つまり、子どもが身近な地域を含めた社会と接点を持ち、社会と連携・協働し、多様な人とのつながりの中で学ぶことができる学習活動のことです。このテーマは、2年生担当者たちが「実生活や社会と関わる学習を通して、学習する意味や学習と生活のつながりに気付かせたい。また、地域や社会の人々と関わることで、多様な人の考えや生き方を実感させたい」という思いで設定しました。

研究授業では、同じ数のまとまりに着目して、生活場面にあるL字型に並んだものの数を、かけ算を使って求める方法について考えました。

授業の最初の映像に登場したのは、なんと昨年度子どもたちの担任だった、現在オランダ アムステルダム日本人学校に勤務している先生でした。先生からのミッションは、



「L字型に並んでいるチーズの数を早く簡単に数える方法を考えて！」

1年生のときの先生の、しかも海外からミッションに、子どもたちは必死に考えようとします。ここで大切なのは、これまで学習してきた「かけ算」の仕組みを使うことです。

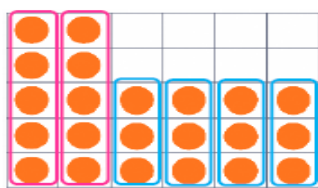
「全体を2つの部分に分けて、6のまとまりが3つ分と、残り4つをたしたらいい」

「同じように2つの部分に分けて、3のまとまりが6つ分と、残り4つをたしたらいい」

「全体を5のまとまりが6つ分と考えて、そこから『ない部分(8こ分)』を引いたらいい」など、アレイ図(「●」などの図形を長方形のマス目に並べた図)や式を使ってチーズの数の求め方を一生懸命考えました。この問題を解決するためには、いろいろな考え方ができます。

例えば・・・

5のまとまりが2つ分

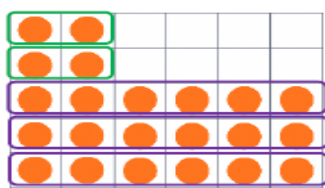


3のまとまりが4つ分

$$5 \times 2 = 10 \quad 3 \times 4 = 12$$

$$10 + 12 = 22$$

2のまとまりが2つ分

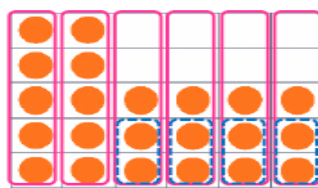


6のまとまりが3つ分

$$6 \times 3 = 18 \quad 2 \times 2 = 4$$

$$18 + 4 = 22$$

5のまとまりが6つ分



2のまとまりが4つ分

$$5 \times 6 = 30 \quad 2 \times 4 = 8$$

$$30 - 8 = 22$$

(※裏面に続く)

(※表面より)

いろいろな考えを出し合ったあとに、どの考えにも同じ考え方はどんなところか話し合い、子どもたちは、L字型に並んでいるものも、分けたり引いたりして、まとまりを作って考えるとよいことに気付きました。

授業の中で、子どもたちがどんどん前に出て、自分の考えをしっかりと説明する姿がすばらしかったです。



授業の終わりには、モニターにアムステルダム日本人学校の2年生の子どもたちが登場！  
「かけ算を使って数を数える場面は、ふだんの生活の中でどんなことがありますか？」  
海外の友達からのミッションも、子どもたちはきっと一生懸命考えたことごとでしょう。

子どもが、社会との関わりの中で豊かな学びを実現するためには、学校が社会との接点を持ち、さまざまな人々とのつながりをもつことが大切だと考えます。子どもたちが社会とのつながりを通して学ぶことで、自身の人生や社会をよりよく変えることができるという実感をもつことが、これから直面するさまざまな課題を乗り越え、成長する力につながることでしょう。

本校では、今後もさまざまな教科の学習を通して、将来の社会で必要な力を育んでいきたいと考えています。

## のだっこ Diary

★子どもたちの学校生活のようすは、本校ホームページでも紹介しています。  
随時更新していますので、ぜひご覧ください。

### 【遠足（2年生：キッズプラザ大阪）】10月3日（金）

環状線に乗って、キッズプラザに向かって出発！館内では、たくさんの遊具で仲良く楽しく活動することができました。また、電車内や駅構内でもマナーを守って立派にすごすことができました。



※「校長室だより」カラー版は、本校ホームページ「配布文書」にアップしています。